

昭和52年度 日本気象学会奨励金受領者選定理由書

奨励金受領者 小形 明 (唐津東高等学校)

研究題目 唐津湾沿岸の小気候

選定理由

小形会員は、唐津東高等学校の地学教育に従事するかたわら、同校の気象部員の協力を得て唐津湾沿岸の小気候についての研究を推めてきている。その成果は、すでに日本気象学会や地学教育学会などに発表されており、主として10km程度の細かいスケールの風の変動を解析し、海陸風などに関していくつかの興味ある問題を提起している。同会員は、これらの問題提起を通じて同校生徒の気象への関心を高め、気象教育の効果をあげている。

さらに、同会員は今後の計画として、観測点の増加によるより細かいスケールの観測、風船を利用した立体的な風向観測、風のほかに湿度などの観測も加えるなど、いっそう充実した観測を考えている。

このような小形会員の研究は、小気候の機構解明に有用であるのみならず、生徒の参加によって気象教育の振興にも寄与するものと認め、本学会はここに同会員に奨励金を贈るものである。

奨励金受領者 宮川和夫 (網走地方気象台)

永沢義嗣 (札幌管区気象台)

研究題目 オホーツク海沿岸の気流調査

選定理由

宮川・永沢両会員は、網走地方気象台に勤務するかたわら、オホーツク海岸沿の海陸風および、それに関連して起こる気温の急変に興味を持ち、研究を進めてきた。このような現象の機構の解明には、地上風だけではなく上層風の資料が不可欠であるが、同会員等は網走地方気象台等の職員の協力を得て数十回のパイボール観測を実施し、時間的・空間的に詳細な資料を得ている。

これらの資料は、すでに同会員等によって解析されつつあり、海陸風による気温変化についていくつかの新しい

事実が明らかにされている。たとえば、一般に言われる海陸風の機構によって海風が侵入してくる場合の気温低下は一般に小さく、大きな気温低下は南西の強風が卓越する場で、南西風が弱まった部分に侵入する海風によって生ずることなどである。

同会員等は、今後さらにパイボールの2点観測を実施し、精度の高い観測資料によって充実した解析を進め、海風侵入の機構の解明を目指している。

本学会は、このような同会員等の研究が局地気象の研究に大きな意義を持つことを認め、その観測計画を支援するために奨励金を贈るものである。

奨励金受領者 佐々木芳春 (仙台管区気象台)

研究題目 冬期のメソじょう乱に伴う局地現象の解析

選定理由

佐々木会員は、秋田地方気象台に勤務中、秋田レーダで観測された大雪時の帯状エコーの調査に着手し、その後、深浦測候所に移ったあとも意欲的に調査を継続し、帯状エコーと上層風の関係、帯状エコーの形成過程と総観場の関係、帯状エコーに伴う地上のメソじょう乱の性質などの解明に努力してきた。

同会員は、本年4月仙台管区気象台に移ったが、今後の計画として、東北地方に全国にさきがけて展開された地域気象観測網(アメダス)の雨、風、気温の資料を利用して帯状エコーに伴うメソじょう乱の構造を解明し、さらにこれをメソじょう乱のモデルにまでまとめ上げることを目指している。また、メソじょう乱の移動が何によって支配されているかを調査し、メソじょう乱の予測に役立てることも計画している。

本学会は、恵まれない環境の下でたゆまぬ努力を続けてきた同会員の意欲を高く評価し、今後、ほかの研究者との交流を通じて大きく成長することを期待し、ここに奨励金を贈るものである。